

VI-8 地方におけるPFIの現状と課題 2

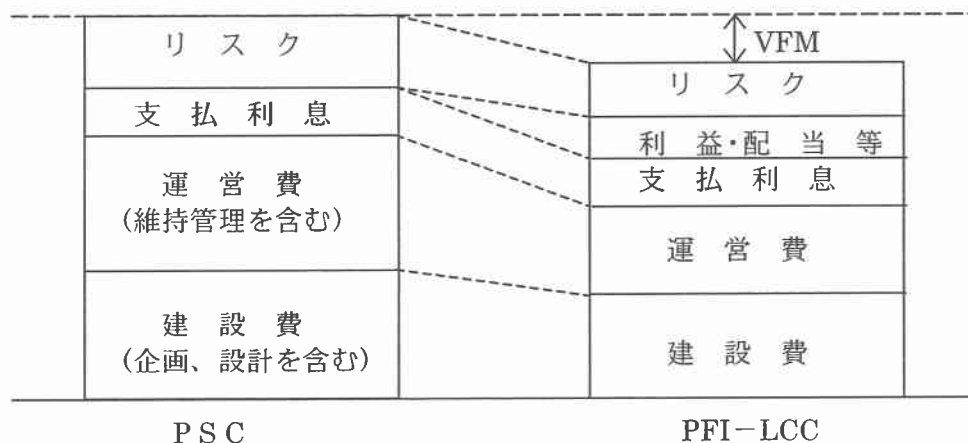
株式会社 相愛 正会員 永野正展
 株式会社 相愛 正会員 ○ 中越伸一
 株式会社 相愛 非会員 福田雄治

PFIの理念は、民間の経営資源を活用して、効率的かつ効果的に社会資本を整備し質の高い公共サービスを提供することで、豊かな社会を実現することにある。ここで問題となってくるのは、何を基準に効率と効果を評価し質の良し悪しを判断するかということになってくる。PFIでは、Value for money (VFM: 投資に対する価値の最大化) を評価基準として投資判断(事業の選定)をすることが極めて重要であるので、ここではVFMの考え方と現状の理解度及び今後の課題について論じてみたい。

1. VFMとは何か

VFMとは、支払われた金銭に対して、その地域で暮らす人々に最も価値の高い社会資本整備または公共サービスを提供することであり、PFI事業のLife Cycle Cost (LCC: PFI事業として実施する場合の事業期間全体を通じた公的財政負担の現在価値)とPublic Sector Comparator (PSC: 公共セクターが実施する場合の事業期間全体を通じた公的財政負担の現在価値)を比較して、PFI事業のLCCが低ければVFMがあると言い、PSCが低ければVFMがないというわけである(図1)。このVFMを適正に評価するためには、金銭の時間的価値の概念の理解とリスクを特定し分析して評価する技術が必要不可欠なものとなってくるが、現状ではこのような議論が十分されないままPFI事業が進行している。

(図1) VFM評価(例)



出典：内閣府民間資金等活用事業推進室

金銭の時間的価値

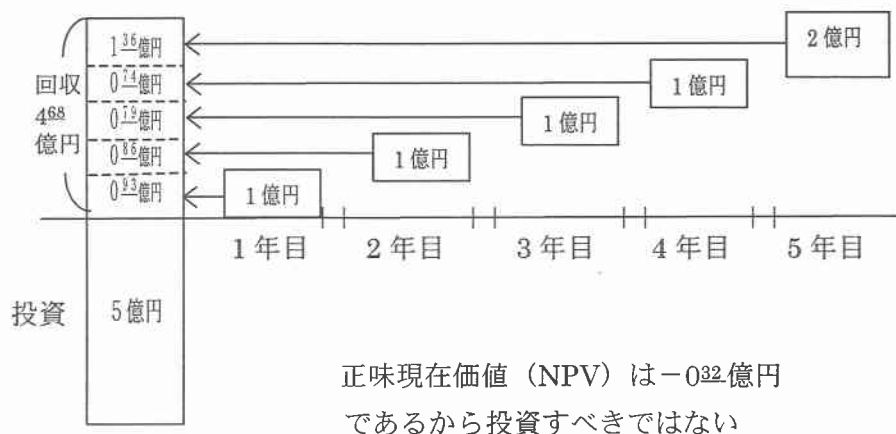
金銭の時間的価値とは、Time Value of Money と言い、資本主義社会では一般的な価値観であるが行政にはこの感覚がないようである。

金銭の価値は、時間軸上で変化するものであるから、それを考慮して評価をしなければならない。すなわち、今日もらえる100万円と来年もらえる100万円は価値が違うということで、このような貨幣価値の変化を無視しては投資に見合うだけのリターンは得られないことになる。金銭の時間的価値を計算する方法としては、Discounted Cash Flow (DCF: キャッシュフロー割引法) が一般的で、未来の金銭の出入り (Cash Flow)

を常に現在価値（Present Value）に割り引いて計算し、その現在価値を合計した正味現在価値（Net Present Value）で投資すべきか否かの判断をする（図2）。

（図2）金銭の時間的価値を考慮した投資判断（例）

前提) 投資 5億円
期間 5年
回収 6億円
割引率 8%

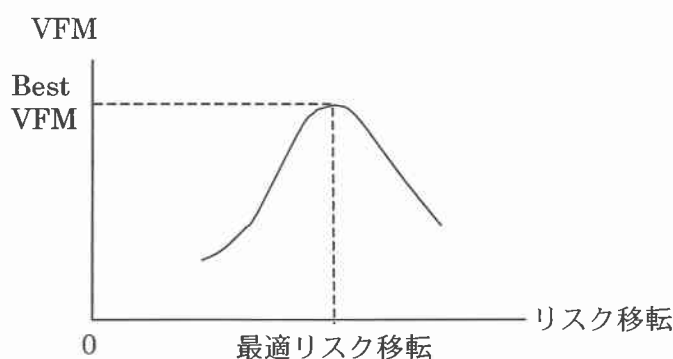


適正なリスク分担

従来の公共事業では、公共セクターが多くのリスクを背負っていたわけで、そのリスクを民間セクターに移転することでVFMを獲得することが可能となってくる。しかし、元来、社会主義的発想で公共事業を発注してきた行政には、リスクという概念がなく、その分析・評価のスキルが身についていない。

よくある議論として、民間にできるだけリスクを押し付けようとする意見がでるが、リスクを分析して評価し最適なリスク配分をしないと、民間のリスクプレミアムが上昇してVFMは低下するということになってしまう（図3）。

（図3）最適リスク配分とVFM



出典：Treasury Task Force

2. VFMについての現状の理解度と今後の課題

我々は、1999年12月より「高知PFI研究会」を結成し高知県庁とともに研究・研修活動を行ってきたが、VFMについてはまだ十分な議論がなされておらず、現状の理解度ではPFIを行うにはかなり無理があるように感じられ、その根源には、資本主義の本質、すなわち市場原理や競争原理を洞察する知識の欠如があると思われる。

PFIが公共投資に市場原理・競争原理を導入するものである以上、まずは資本主義の本質を深く理解し、VFMの概念をしっかりと把握した上でPFI事業に取り組むべきと考える。